

第6学年 総合学習の計画と実践

(学年目標ならびにテーマ)

他を思い 自己をみがく

考えよう 行動しよう

福祉・ボランティア

1 テーマ設定の理由

本学年の児童は、与えられた課題に対しては、前向きに熱心に取り組む。しかし、自ら考えて行動をおこす児童は少なく、周りの友達の動きや教師の指示を待っている児童がほとんどである。学校のリーダーとしても「こうありたい」「こうしなければならない」ということは分かっているが、恥ずかしさや自分への甘えから、具体的な行動に移せないでいる者が多いように見受けられる。また、友達同士の大きなトラブルは少ないが、自分とは異なった意見をもつ友達や、遅れて進む友達に対して、思いやりに欠ける言動をとる児童も数名いる。

現在、わが国では、若年層が減少し、高齢者が増加するという高齢化社会を迎えている。今後、さらに増加が予想され、現代社会の課題となっている。学校教育でも福祉活動の実践力を培おうという気運は高まってきており、高齢者や障害をもつ方々と互いに尊重しあっていかなければならない。このような背景の中で、児童は、1学期には、吉野公民館を訪問し、高齢者との交流をする機会をもつことができた。そして、高齢者と共に伝承遊びや会食をすることを通して、高齢者の方々の温かさや知恵を感じ取ることができた。

そこで、6年生では、「考えよう 行動しよう 福祉・ボランティア」をテーマに、さらに福祉・ボランティアの活動を進め、「他を思う」子どもたちの心の成長を目指そうと考えた。また、体験活動を重視し、様々な障害をもつ高齢者との交流を通して、心を行動に移す難しさややすばらしさを感じ取らせ、高齢者や周囲の人たちに自分から何かをしようとする積極的な態度を育てていきたいと考える。

2 2・3学期の実施計画

身につけさせたい力

(総合的な学習のねらいから)

- ・ 1学期の学習をもとに、疑問や関心を持ち、課題を設定することができる。
- ・ 高齢者への理解を深めていくうえで、自分にできることは何かを考え、それを実践していくことができる。
- ・ 図書やインターネットを調べたり、地域の施設や地域の人材等に積極的に働きかけたりして、情報を収集することができる。
- ・ 体験したことや学んだことを表現方法や構成等を工夫して、相手に分かりやすく伝えたり、まとめたりすることができる。

(人とのかわりから)

- ・ 同じ課題をもつ友達とグループを作ったり、高齢者の方や施設の方に主体的に話しかけたりして、積極的に多くの人と交流を持とうとすることができる。
- ・ 高齢者の立場に立って考えた、対応をすることができる。
- ・ 友達のよさや、学習にかかわってくださった方の知恵や考え方、生き方に触れ、自分の生活を振り返り、自分をさらにたかめていこうと努力することができる。
- ・ 体験したことや学んだことを友達と協力しながらまとめていくことができる。

(認識)

(行動)

(共生)



